令和４年度

教職課程
自己点検評価報告書

びわこ成蹊スポーツ大学
スポーツ学部
スポーツ学研究科

令和５年６月

びわこ成蹊スポーツ大学　教職課程認定学部

学部：スポーツ学部　スポーツ学科
大学院：スポーツ学研究科

全体評価

本学では平成 29（2017）年度に教職センターを設置し、教職課程の充実と教員採用のさらなる推進を図ってきたが、その後の組織改編により「教職センター」から「教務委員会教職課程ワーキンググループ」（令和 3（2021 年度））、「教務委員会教職課程専門委員会」（令和 4（2022）年度）と変遷してきた。しかしながら、その機能（教職員配置、カリキュラムの充実、教員採用に向けた各種取組など）は、滞ることなく、むしろ向上してきたと自負している。

実際に令和 4（2022）年度の教員採用試験では現役学生の採用が 10 名と本学過去最高となった。正式採用ではない講師を経ての採用試験合格者数はこれまでから高い水準であったが、本学の教職希望規模から考え、また都道府県の教員採用数減少の中、この現役 10 名は特筆できることである。

この背景には、教職センター開設と同時に教職を目指して特別学修を行う「教職コアチーム」を立ち上げ、学生がチームとして一丸となって相互協力・切磋琢磨して教員採用試験に臨もうという方針を全学で共有したことがある。教職を目指す高い意識を持つ学生が本学のラーニングコモンズに常時集まり主体的に学修することにより、教職課程に関係する教職員の指導意欲も高まった。また、教職コアチームに参加していない学生もコアチームの活動を近くで見聞することにより、教職に向かうための意識が醸成され、コアチームのメンバーとの情報共有や共に学修する場面が見られた。

一方で、この数年の新型コロナウイルス感染症蔓延により、教職課程のみならず大学における学びのスタイルが大きく変化した。それまで当たり前であった対面で培われてきた学生の学修活動、課外・社会貢献活動などの大学生活が遠隔・リモートとなり、大学としても学修環境の安定確保に奔走した。その中で教職課程では、学校におけるＩＣＴ教育を見据え、この機に学生に積極的にＩＣＴスキルの向上を呼びかけ教職課程の授業の質を確保した。また、ＩＣＴを活用した主体的・対話的で深い学びについても考えさせることができた。これらの経験は将来の学校現場で役立つものと確信している。

本学では令和 6（2024）年度から新たな学部コース編成・教育課程での教育が進められる予定であるが、今回の自己点検評価を踏まえ、より良い教職課程の編成、組織の充実を図る所存である。

びわこ成蹊スポーツ学部
副学長　中野　友博

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色　……１

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価　……３
基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み　……３

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援　……１２

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム　……１７

Ⅲ　総合評価　……３４

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス　……３４

Ⅴ　現況基礎データ一覧　……３６

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

１　現況

（１）　大学名：びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部
　　びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学研究科

（２）　所在地：滋賀県大津市北比良 1204 番地

（３）　学生数及び教員数（令和 4 年（2022 年）5 月 1 現在）
　　学生数：教職課程履修　445 名/学部全体 1530 名
　　教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）　27 名/学部全体 45 名

２　特色

（１）　建学の精神と教員養成

本学の建学の精神は「桃李不言下自成蹊」（桃李もの言わざれども下おのずから蹊を成す）という中国の司馬遷の『史記』に由来している。大学名に冠する「成蹊」の名称は、「桃や李は何も言わないが、その美しい花や実にひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道（蹊）ができる」という意味である。これは徳が高く、尊敬される人物のもとには徳を慕って人々が集まってくるという譬えであり、本学では「徳があり、人に慕われ、信頼される人を育てること」を教育の目標としている。

また、行動の指針として「忠恕」を掲げ、「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わすことから、誠を尽くし人の立場になって考え行動できる資質の涵養に努めている。

キャンパスは、清らかな水を湛える琵琶湖の西岸、緑に映える比良山系の麓に位置し、悠久の歴史と豊かな自然の中、我が国ではじめて「スポーツ」を大学名に刻み平成 15（2003）年 4 月に開学した。その中で「スポーツ学部」を設置し、新しいスポーツ文化の創造のための教育研究に努め、日々のスポーツや健康に関するニーズに応えられるよう、スポーツを開発し支援することのできる豊かな教養と高度な専門性を有する人材を育成しており、その資質や能力を、広く社会に役立てることを目指している。

この本学の建学の精神は、まさに教員に求められる資質を表わすものであり、子どもたちに慕われ、信頼されることこそが、最も肝要であると言える。また、スポーツをとおして学ぶ「挑戦」、「協力」「他者への尊重」などの豊かな社会性も子どもたちの教育に欠かせないものとなっており、教職に関する学修のみならず、本学での生活全般においても身に付けることができる。

（２）　本学の特色と教員養成

本学の教育の特色を教育現場や子どもたちへのスポーツ指導の観点から、以下に示す。

①　人間力を養う「ＬＣＤ教育プログラム」

キャリアを形成するために必要な基盤的能力であるＬ：リテラシー（知識）、Ｃ：コンピテンシー（能力）、Ｄ：ディグニティ（品格）の 3 つの要素を育む共通教育を展開している。

②　スポーツの実践的な学びを提供

保健体育科教員として教育現場で培った経験のある教員など、あらゆる側面からスポーツと関わる経験豊富な教員が教育・指導を行っている。

③　新たなスポーツの価値を創造する「スポーツ×AI・データサイエンス教育」プログラム

数理・AI・データサイエンスのリテラシーを高めるため、全学生を対象に新プログラム「スポーツ×AI・データサイエンス教育」プログラムをスタートさせた。

④　コロナ禍でも就職に強い

常駐する教職アドバイザーが徹底的にサポートし、毎年約 50 名が教員採用試験に合格（既卒者含む）している。

⑤　教員・公務員・スポーツ系企業など学生の夢を叶える充実のキャリアサポート

志の高い学生がチームで採用試験合格を目指す「教職コアチーム」「公務員コアチーム」「企業コアチーム」を結成している。

⑥　全国レベルで活躍する課外活動

全国レベルの活躍が続出し、その活動を通じて部活動指導の資質を高めている。

⑦　世界基準の充実したスポーツ施設

スポーツを専門的に学び、実践することができるスポーツ施設を有している。

⑧　スポーツの現場から学べる「プロスポーツチームとの連携」

プロスポーツチームの運営サポートなどに参加し、スポーツ現場の仕事を体験することができる。

⑨　すべての人々に健康と笑顔を「地域に開かれた大学」

子どもにスポーツの楽しさを伝える「びわスポキッズプログラム」で、年間 2,000 名以上の子どもに運動指導を実践している。

学生は子どもへの指導経験を通して実践力を習得している。

⑩　全てが学びのフィールド「自然豊かなキャンパス」

自然環境を活かしたマリンスポーツやアウトドアキャンプといった野外スポーツ実習など特色ある授業を展開している。

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１―１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

①　本学が育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。（資料１－１－１）

②　教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）　が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。（資料１－１－２）

〔長所・特色〕

①　本学の教職教育を通じて育てたい教員像は、常に本学行動指針「忠恕」の精神（誠実と思いやりの心）を持った次のような教員である。

（１）知徳体のバランスのとれた教養豊かな教員
（２）教育者としての使命感や子どもに対する教育的愛情豊かな教員
（３）子どもの成長・発達を保障する専門性豊かな教員
（４）得意分野を持つ個性豊かな教員
（５）地域の特色に理解があり、地域、家庭から信頼される社会性豊かな教員
（６）自らを高める意欲を持つとともに、職場の同僚と連携できる組織力豊かな教員

②　成績評価の適正化を推進するために教学改革推進会議において作成された「成績評価ガイドライン」に基づいた成績評価を進めている。同ガイドラインは、本学サーバー（クラウド上）に保存されており、常時確認することができる。

また、学生へは、『履修の手引き』を配付し、「成績評価ガイドライン」および「ＧＰＡ制度」を周知している。

さらに、教員養成の目標の達成状況を明らかにするため、卒業者の教育職員免許状の取得状況及び教員採用状況の情報をホームページにおいて公表している。

〔取り組み上の課題〕

教職課程教育において単に教育に関する知識・技能、実践力を修得するだけではなく、上記に示すような人間性（教養、教育的愛情、専門性、個性、社会性、組織力）豊かな教員の養成を学生生活全体で進める必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１－１－１：教職課程専門委員会のミッション、びわこ成蹊スポーツ大学教職課程専門委員会、2022 年

びわこ成蹊スポーツ大学教職課程専門委員会のミッション

本委員会は、本学が目標とする教員像を具現する教員の育成を図るため 、次に揚げる職務を遂行する。

（１）知識と実践力を備えた授業力の高い教員の養成
（２）教職課程の質の保証と学修の充実
（３）教員採用に向けた系統的・段階的学修支援
（４）学生・現職教員の教育者・スポーツ指導者としての資質の向上と人格の醸成

目標とする教員像

本学の教職教育を通じて育てたい教員像は、常に本学行動指針「忠恕」の精神（誠実と思いやりの心）を持った次のような教員である。

（１）知徳体のバランスのとれた教養豊かな教員
（２）教育者としての使命感や子どもに対する教育的愛情豊かな教員
（３）子どもの成長・発達を保障する専門性豊かな教員
（４）得意分野を持つ個性豊かな教員
（５）地域の特色に理解があり、地域、家庭から信頼される社会性豊かな教員
（６）自らを高める意欲を持つとともに、職場の同僚と連携できる組織力豊かな教員

教職課程専門委員会　所掌内容

教員養成（教職課程）
教職課程カリキュラムマネジメント
教職科目の運用
教職課程の履修・免許

教員研修
質の高い教員養成に向けた研究
教職課程の質保証（学内FD・SD研修）
研修に関する教育委員会・他大学との連携

＜キャリアセンター所掌＞

教員採用
キャリア形成支援
教員採用試験対策
教職コアチーム創設・指導
教員採用試験指導

教員養成・育成に向けた指導・支援方針

教員養成

○１年次生から４年間、連続性のある一貫した教職課程の指導・支援
○教職課程学修の質の向上

教員研修

○教育委員会、近隣大学との連携

教員採用

○学部学修と連動した教員採用試験対策
○教職コアチーム編成によるチーム学修
○教員採用試験を熟知したアドバイザーによる学修の段階に応じた指導・支援
○ラーニングコモンズを拠点とした自主学修体制の確立

・資料１―１―２：びわこ成蹊スポーツ大学 2022 履修の手引き、成績評価ガイドライン、ｐ．42、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年

基準項目１―２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

① 教職課程認定基準に適合した教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

② 教員の「養成」、「研修」は教務委員会教職課程専門委員会が、「採用」に関してはキャリアセンターの教員採用担当が所掌し、教職課程業務を分担して教員養成を進めている。（資料１―２―１）

③ 教職課程の資質向上のために、授業評価アンケートの活用をはじめ、ＦＤ（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やＳＤ（職員の能力開発）の取り組みを展開している。（資料１―２―２）

＜ＦＤ・ＳＤの取組状況＞

・主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）を考える

＜授業評価アンケートの取組状況＞

毎年前期と後期の授業の第 13 回・14 回目に学生に授業評価アンケートを実施している。その授業評価アンケート結果をもとに、それぞれの授業科目の内容・方法の見直しにつなげ、次年度の教職課程のシラバス作成や授業の改善に活かしている。（資料１―２―３）

④ 教員の養成の状況についての情報公表を行っている。本学のホームページ「情報公開」の「教職課程に関する情報」において、「教育職員免許法施行規則（第二十二条の六）」に基づく情報を下記の内容とともに、教育職員免許状取得者数及び教職就職者も含めて公開している。

ア　教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

イ　教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

ウ　教員の養成に係る授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

エ　卒業者の教員免許状の取得の状況及び教員への採用の状況に関すること

オ　教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

上記の他に、令和元（2019）年度から毎年、教職課程に関する報告書を作成し、本学教職課程の取り組みを学内で共有している。（資料１－２－４）

⑤ 全学に関わる教職課程専門委員会が教職課程の在り方について、より良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて行うこととしている。

〔長所・特色〕

① 実務家教員は高等学校管理職経験者、小学校管理職経験者、小学校・中学校・高等学校の各校種教諭経験者を配置するとともに、キャリアセンターにも本学近隣府県の学校管理職経験者を職員として配置し、「採用」に関しても手厚い指導を行っている。

② 本学の教学改革推進会議の「PJ10 授業評価アンケートの活用」、「PJ15 体系的な FSD プログラムの展開」の各プロジェクトにおいて全学的に教職課程の資質向上に向けた取り組みを行っている。

また、「全学的なアクティブラーニングの推進」のプロジェクトでは「主体的・対話的で深い学び」の授業展開についての研修も実施している。

授業評価アンケートは、「授業への取組について」と「授業内容について」の大きく２つの項目に分かれ、全 42 項目の質問に回答する形になっている。大学全体の回

答平均値と担当科目の回答平均値を比較することにより、次年度のシラバス作成や授業改善に活かすことができる。

また、自由記述（良かった点、意見、改善点等）があり、学生からの意見をもとに授業を振り返るきっかけとなっている。

③　教職課程に関係する教職員には教職課程運営に関する外部組織（全国・地域の大学教職課程連絡協議組織）の研修を受講し運営資質の向上に努めている。

④　本学の教職課程における情報公開の特色は、「教育職員免許法施行規則（第二十二条の六）に定められた情報公開に基づき、本学のホームページ「情報公開」に「教職課程に関する情報」の項目を設定して情報公開をしていることである。

さらに、それらの内容をもとに「びわこ成蹊スポーツ大学教職課程年報」を各年度発行している。

今後は、「教職課程自己点検評価報告書」についてもホームページに掲載する予定である。

〔取り組み上の課題〕

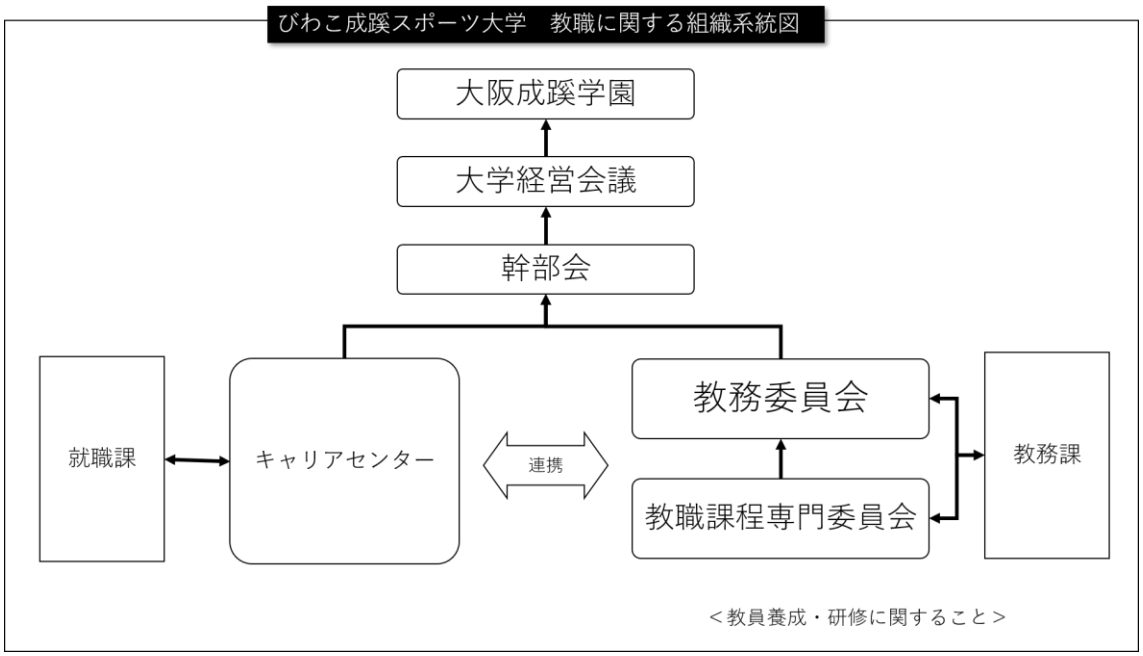
①　平成 30（2018）年度に「教職センター」を設置したが、令和 3（2021）年度からは「教職課程ワーキンググループ（教務委員会下部組織）」、令和 4（2022）年度は「教職課程専門員会（教務委員会下部組織）」と教職課程に関する組織の変更が行われた。変更に伴い、事務担当部署の変更も行われ、現在は、採用はキャリア支援課、養成・研修は教務課が担当となっており、連携が重要であるが、情報共有を行うための時間の確保ができておらず、今後連携強化のための対策を実施する必要がある。

②　授業評価アンケートは学生に対し次年度の授業改善につながるので協力を呼びかけているが、100％の回答率につながっていない。

③　教職課程科目に関する公表事項を年次ごとに速やかに公開する必要がある。学内のホームページ担当者との連携を密にして公開する必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料１―２―１：びわこ成蹊スポーツ大学組織図、びわこ成蹊スポーツ大学、2022 年



・資料１―２―２：びわこ成蹊スポーツ大学教学改革推進会議プロジェクト、びわこ成蹊スポーツ大学教学改革推進会議、2022 年

びわこ成蹊スポーツ大学 教学改革プロジェクト 2022年度 各プロジェクト一覧

PJ1：Society5.0時代の新たな教育体系・学校運営の構築
PJ2：初年次教育
PJ3：キャリア教育
PJ4：専門科目（卒業研究を含む）の充実
PJ5：学修成果の可視化
PJ6：シラバスの一層の充実
PJ7：全学的なアクティブラーニングの推進
PJ8：適切な成績評価の実施
PJ9：産・学・地の連携による教育研究の充実
PJ10:授業評価アンケートの活用
PJ11:学びの成果を発揮する機会の充実
PJ12:コモンズの活性化
PJ13:語学・グローバル教育の充実
PJ14:高大接続改革の実現
PJ15:体系的なFSDプログラムの展開
PJ16:パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトの推進
PJ17:教学IR体制の構築

びわこ成蹊スポーツ大学教学改革推進会議

・資料１―２―３：授業評価アンケート、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年度前期（参考例）

【資料】アンケート項目一覧

I-1. この授業への出席状況
I-2. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）
（時間）I-3. 「この授業の予習・復習・課題」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（対面での授業時間・遠隔での授業時間を除く）
I-3. 「全ての授業（この授業を含む）の予習・復習・課題＋その他の自主的な学習」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（授業時間を除く）
（時間）I-3. 「全ての授業（この授業を含む）の予習・復習・課題＋その他の自主的な学習」に取り組むために費やした1週間あたりの平均学習時間（対面での授業時間・遠隔での授業時間を除く）
I-4. 私はこの授業のシラバスを活用した。

I-5. この授業に対して履修前の期待は I-6. この授業の受講後の評価（学び）は I-7. この授業のレベルは私にとって -8. この授業の内容は私にとって	授業評価	知識技能思考判断	授業満足	関心意欲態度	主体的な学び	授業継続保	設備
II-1. 全体として、教員の説明は適切で分かりやすかった。	○						
II-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	○						
II-3. この分野の専門的知識や技能が身についた。		○					
II-4. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	○						
II-5. この授業は、履修前の事前期待を上回っていた。			○				
II-6. 教員は学びを深める方法（授業の受け方、課題への取り組み方、復習の仕方など）を教えていた。	○						
II-7. この授業に意欲的に取り組んだ。				○			
II-8. 教員は学生の授業参加（質問、個人・共同作業、意見交換、議論、発表など）を促していた。	○						
II-9. 学習力や思考力が高まった。		○					
II-10. 教員は学生が取り組んだ課題に対して、適切なフィードバック（例応・意見・評価など）をしていた。	○						
II-11. 教員は各回の授業のテーマや目標、科目全体の中での位置づけを明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	○						
II-12. コミュニケーションする力（他人の意見を聞き、自分の意見を適切に表現する力）が高まった。		○					
II-13.テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	○						
II-14.この授業で学んだ領域について関心・関心が高まった。				○			
II-15.この授業の履修は適切な選択であった。			○				
II-16.教員の授業に対する熱意を感じた。	○						
II-17.考え方や社会的視野が広がった。		○					
II-18.教員は授業の準備を十分にしていた。	○						
II-19.この授業では、学生を中心に据え、主体的に取り組んだ。				○			
II-20.教員は学生がマナーを守るよう指導していた。						○	
II-21.シラバスに明記されている本授業における到達目標（知識、技術、態度など）を達成できた。		○					
II-22.クラス全体が集中して学べるように教員が指導していた。						○	
II-23.知的好奇心や探究心が高まった。		○					
II-24.教員はより良い授業となるよう授業方法や授業環境の改善に取り組んでいた。	○						
（講・演）II-25. 教科書やスライド資料（パワーポイントなど）は適切で分かりやすかった。	○						
（実技・実験・実習）II-26. 教員による実演や実習等の説明は分かりやすかった。	○						
II-26.これから生きていくうえで役立つと思う。		○					
II-27.（該当者のみ回答）遠隔授業では教員は授業ツール（Teams・Zoomなど）を適切に活用していた。	○						
II-28.この授業を受けて総合的に満足した。			○				
II-29.（該当者のみ回答）対面授業では適切な教育環境（空調・プロジェクター、机の配置など）が整って							○
II-30.課されたレポートや課題は少しでも良いものに仕上げようと努力する。					○		
II-31. 授業の中でアクティブラーニング的な（主体的・対話的で深い学びに繋がる活動：課題解決	○						
II-32.（該当者のみ回答）対面授業で使用した教育環境（ICT環境、PC・測定機材機器・スポーツ用具・ス							○
II-33.課題は納得のいくまで取り組む。					○		
II-34.（該当者のみ回答）対面授業で使用した教育環境（ICT環境、PC・測定機材機器・スポーツ用具・ス							○

月分 提出

2022年度　前期

授業評価アンケート

科目別集計結果

履修者数	66	名
有効回答者数	62	名
有効回答率	93.9	%

科目名　▲▲▲▲

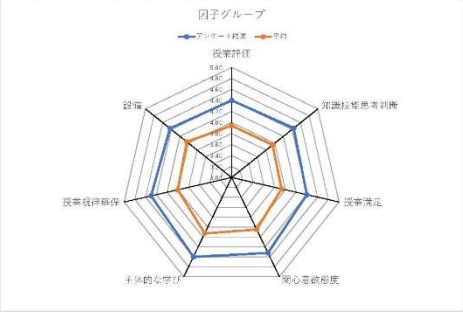
講座担当代表　○○ ○○

講座授業者　○○ ○○

科目名	○○ ○○

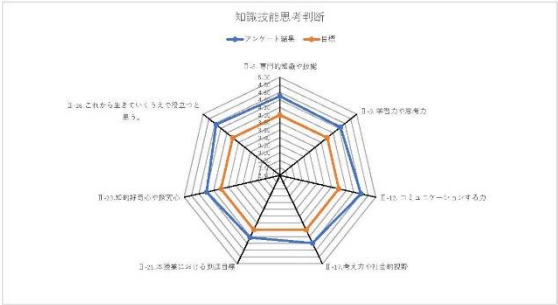
因子グループ レーダーチャート

	授業評価	知識技能思考判断	授業満足	関心意欲態度	主体的な学び	授業規律確保	設備
アンケート結果	4.40	4.44	4.40	4.52	4.66	4.5	4.43
平均	3.94	3.95	3.93	4.05	4.13	4.00	4.04



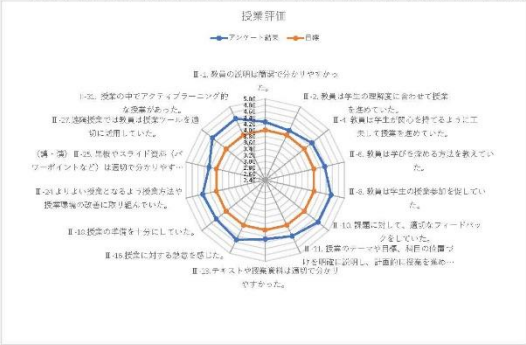
知識技能思考判断 レーダーチャート

	Ⅱ-3. 専門的知識や技能	Ⅱ-9. 学習力や思考力	Ⅱ-13. コミュニケーションする力	Ⅱ-17. 考え方や社会的規範	Ⅱ-21. 授業における知識目標	Ⅱ-23. 知的好奇心や探究心	Ⅱ-26. これからいきていくうえで役立つと思う。
アンケート結果	4.50	4.45	4.60	4.39	4.23	4.39	4.56
目標	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00



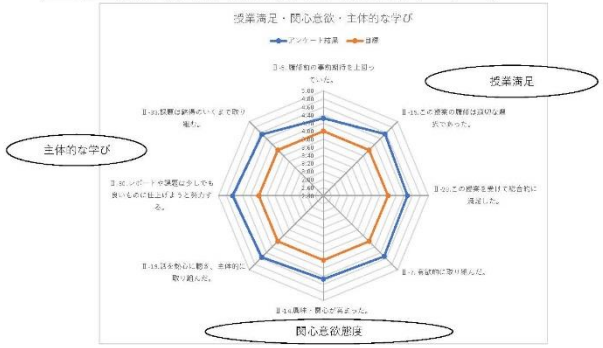
授業評価 レーダーチャート

	Ⅰ-1. 教員の説明は簡潔で分かりやすかった。	Ⅰ-2. 教員は学生の理解度に合わせて授業を進めていた。	Ⅰ-4. 教員は学生が関心を持てるように工夫して授業を進めていた。	Ⅰ-5. 教員は学びを深める方法を教えていた。	Ⅰ-6. 教員は学生の授業参加を促していた。	Ⅰ-10. 課題に対して、適切なフィードバックをしていた。	Ⅰ-11. 授業のテーマや目標、毎回の授業内容を明確に説明し、計画的に授業を進めていた。	Ⅰ-13. テキストや授業資料は適切で分かりやすかった。	Ⅰ-16. 授業に対する教室を整えた。	Ⅰ-18. 授業の準備を十分にしていた。	Ⅰ-24. より授業よりよい授業となるよう授業方法や授業環境の改善に取り組んでいた。	Ⅰ-25. 黒板やスライド資料（パワーポイントなど）は適切で分かりやすかった。	Ⅰ-27. 適切授業では教員は授業ツールを適切に活用していた。	Ⅰ-31. 授業の中でアクティブラーニング的な授業があった。
アンケート結果	4.26	4.16	4.31	4.35	4.56	4.56	4.39	4.29	4.52	4.40	4.45	4.24	4.56	4.58
目標	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00



授業満足・関心意欲態度・主体的な学び レーダーチャート

	授業満足			関心意欲態度			主体的な学び					
	Ⅱ-5. 授業内容の事前期待を上回っていた。	Ⅱ-15. この授業の難易度は適切な選択であった。	Ⅱ-29. この授業を受けて総合的に満足した。	Ⅱ-7. 意欲的に取り組んだ。	Ⅱ-25. 興味・関心が高まった。	Ⅱ-19. 復習を中心に、主体的に取り組んだ。	Ⅱ-30. レポートや課題は少しでも良いものに仕上げようと努力する。	Ⅱ-33. 課題は時間をかけてでも取り組む。	授業外（Ⅱ-3）で自学・復習・課題に取り組んだ。（授業外（Ⅱ-3）で自学・復習・課題・レポートなどに取り組んだ。）	授業外（Ⅱ-3）で自学・復習・課題・レポートなどに取り組んだ。（授業外（Ⅱ-3）で自学・復習・課題・レポートなどに取り組んだ。）	【参考】	
アンケート結果	4.32	4.56	4.48	4.53	4.47	4.56	4.65	4.55	2.71時間	2.1時間	【参考】Ⅰ-30、Ⅱ-33で主体的に学ぶ姿勢を見ていますが、実際の行動についてはⅠ-2、Ⅰ-3で質問していますのご確認ください。	
目標	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	-	-	※逆算値で計算しています。確定値は教務からの	



・資料１－２－４：2021 年度びわこ成蹊スポーツ大学教職課程年報、びわこ成蹊スポーツ大学教職課程ワーキンググループ、2022 年

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

［現状説明］
①　当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像や「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしオープンキャンパス等を実施している。（資料２－２－１）
②　「教職課程編成・実施の方針等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。（資料２－２－２）
③　「履修カルテ」等を用いて、学生の適性や資質に応じた教職指導を行っている。

［長所・特色］
①　本学における「入学者受入れの方針」は次のとおりである。
ア　びわこ成蹊スポーツ大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
イ　スポーツに興味・関心を持ち、将来、スポーツ界で活躍し、スポーツ界の発展に貢献したいという意欲を持っている。
ウ　高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
エ　スポーツに関する基本的な知識や技能を身につけている。
オ　他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
カ　スポーツ界を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。
キ　「スポーツが持つ力」を理解し、多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。
以上のような人材を求め、受験者の資質を測り、入学者選抜を実施している。
②　４年次生で教育実習を履修するための条件として、次の２要件を課している。
ア　卒業要件の「学部基礎科目」の必修科目を配当年次で修得すること。（１年次配当科目８科目、２年次配当科目１科目）
イ　教育実習履修要件科目＜ゲート科目＞を２年次終了までに修得すること。（１年次配当科目２科目、２年次配当科目５科目）

③　「履修カルテ」を、学生の学びの成長の度合いを自己検証できる重要なツールとして活用し、３年次での「教育実習指導」、４年次での「教職実践演習」の指導に、この蓄積を活かしている。
　本学では、教職課程を希望する学生は、「カリキュラムマップ」を手掛かりに教職課程での学びを開始する。そして、現在の自分を客観的に評価し、振り返るための「履修カルテ」を含む『教職課程ポートフォリオ』を作成し、半期ごとに、履修状況、修得の有無、成績を確認し、「自己評価用ルーブリック」に基づいた自己評価を行い学修成果の可視化を図っている。
　また、各授業の成果物を綴じ、随時見返すことにより教職課程での学びをより充実したものにしている。各期末には、「自分に関する記録」をまとめ、自らの学びを振り返り、次年度に達成したい目標を明確化するように指導している。この「自分に関する記録」は教職課程の教員が点検し、学生の現状を把握し、今後の指導に活かしている。
　さらに、教職課程の最終段階として４年次後期に開設している「教職実践演習（中・高）」の初回時の授業において「教職課程ポートフォリオ」を活用し、これまでの教職課程で履修した教職に関する科目、教科に関する科目の「自己評価用ルーブリック」に基づく自己評価シートをもとに学びのシェアリング・討議などを通じて、情報を共有し、学生本人の課題の明確化を図っている。

［取り組み上の課題］
① 毎年オープンキャンパス等の活性化を図るとともに、入試改革を推進して学生募集を行い、入学者の定員数の確保はしているが、教職希望者は減少傾向にある。

＜根拠となる資料・データ等＞
・ 資料２－２－１：アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）、びわこ成蹊スポーツ大学入試課、2022 年

■アドミッション・ポリシー （入学者受入れの方針）■

びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部は、スポーツに興味・関心があり、基礎的な学力、運動能力、そして豊かな人間性を備え、自己の将来に向かって成長し、スポーツを通じて社会に貢献する意志を持つ人の入学を希望します。

教育目的
びわこ成蹊スポーツ大学は、建学の精神である「桃李不言下自成蹊」の理念に基づき、新しいスポーツ文化の創造のための教育研究に努め、日々のスポーツや健康に関するニーズに応えられるよう、スポーツを開発し、支援することのできる豊かな教養と高度な専門性を有する人材を育成する。

入学者に求めるもの
本学スポーツ学部では、入学後の教育を踏まえ、以下のような人の入学を求めています。

1.関心・意欲
（１）びわこ成蹊スポーツ大学の建学の精神とそれに基づく教育目的を理解し、「人間力」を備えた人に成長しようという意欲を持っている。
（２）スポーツに興味・関心を持ち、将来、スポーツ界で活躍し、スポーツ界の発展に貢献したいという意欲を持っている。

2.知識・技能
（１）高等学校で履修する教科について、内容を理解し、基本的な知識を身につけている。
（２）スポーツに関する基本的な知識や技能を身につけている。

3.思考・判断・表現
（１）他者の意図を適切に理解し、自分の考えをわかりやすく表現することができる。
（２）スポーツ界を取り巻く様々な事象について論理的に考えることができる。

4.主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
（１）「スポーツが持つ力」を理解し、多様な人々とも協働しながら、主体的に学びを深めていこうという態度を身につけている。

〈入学者選抜の方法と評価〉
本学では、面接、推薦書・調査書、スポーツ活動等証明書、実技、小論文、学科試験、大学入学共通テスト等の多様な方法を活用して、受験者の資質を測り、入学者選抜を実施しています。

・ 資料２－２－２:「教育職員免許状取得について」、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年

2022年７月５日（火）５限　配付資料
2022年12月９日（金）５限　配付資料

教育職員免許状取得について（2022 年度入学生対象）

１．取得可能免許

免許の種類（教科）	取得可能コース等
中学校教諭一種免許状（保健体育）	全てのコースにて取得可能 ※ただし、教育実習および介護等体験に参加するための条件あり
高等学校教諭一種免許状（保健体育）	

※ 本学では原則中学校・高等学校教諭一種免許状の両方を取得することとなっている。

２．教員免許状を取得するためには

次の条件が必要です。

（１）学士の学位を有すること（卒業に必要な単位を修得すること）

（２）教育職員免許法施行規則に対応する科目の単位を修得すること
〇教科及び教職に関する科目
〇教育職員免許法施行規則第 66 条の６に定める科目
→2022 履修の手引き　Ｐ４７～４９（〔２０２０年度以降入学生〕（新法適用））

（３）中学校教諭一種免許状を取得する者は「介護等体験」を行うこと

３．教育実習について

（１）教育実習とは
教育実習は、教育職員免許法施行規則第４条および第５条に基づき、中学校・高等学校の教育現場において、大学で学んだ知識や実技を生かし、実際に指導することによって、教員としての資質や技能を養うことを目的としている。

※ 教育実習の受け入れは、将来教員になることを前提としている。従って「教員採用試験」を受けることが原則である。また、部活動やアルバイト、就職活動等を理由に教育実習を欠勤することはできない。

（２）実施時期
４年次生（在学４年目：休学期間除く）の前期（５月～７月）、又は後期（８月～１１月）
※但し、教育実習に行くための条件を満たした場合に限る。条件を満たさない場合はそれ以降となる。

（３）実習期間
３週間以上（受入校によっては４週間の場合もある）

（４）「教育実習」を履修するには
４年次（在学４年目：休学期間除く）で教育実習に行くためには、下記の条件を満たす必要がある。

条　件

① 卒業要件の「学部基礎科目」の必修科目を配当年次で修得すること。

１年次配当科目	成蹊スポーツ基礎演習	フレッシュマンキャンプ演習	スタディスキルⅠ	スタディスキルⅡ
	情報処理論	英語基礎	英語表現	自己理解とキャリアプランニ
２年次配当科目	キャリア形成と仕事理解			

② 教育実習履修要件科目≪ゲート科目≫を２年次終了（在学２年目：休学期間除く）までに修得すること。

１年次配当科目	教職入門	教育学概論	
２年次配当科目	教育心理学	保健体育科教育法Ⅰ（体育）	生徒・進路指導論
	教育課程論	道徳の指導法	

③履修規程第 22 条にもとづく「履修制限」の対象とならないこと。

④３年次終了（在学３年目：休学期間除く）までに下記の実技科目をすべて修得済みであること。
「器械運動」「陸上競技」「バスケットボール」「バレーボール」「水中運動法」「ソフトボール」「ダンス」「柔道」

⑤３年次（在学３年目：休学期間除く）で介護等体験を終えていること。

※入学後、びわこ成蹊スポーツ大学学則第 44 条第２項に該当する懲戒（退学・停学・訓告）を受けたときは、上記の条件を満たしていても教育実習に参加できない場合がある。

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

［現状説明］

①　学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。（資料２―２－１）

②　学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

③　教職に就くための各種情報を適切に提供している。また、教職に就いている卒業生との連携を図っている。（資料２―２－２）

④　教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。（資料２―２－３）

⑤　キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。（資料２―２―４）

［長所・特色］

①　本学キャリアセンター教職担当職員（教職アドバイザー）により、教職を希望する学生の意欲や適性に関してのヒアリングを定期的に実施しアドバイスを行っている。また、その情報を教職課程担当教員やゼミナール担当教員にフィードバックし、教員採用試験に向けての指導を行っている。キャリアセンターでは定例的に会議を開催し、学生の就職状況を含めた現状を共有している。

　教員採用試験に向けた対策として「教職コアチーム」と称した特別学修チームを３年次から編成し、教員採用試験に向けた一般教養、教職教養、実技、面接（個人・集団）等の指導を計画的に実施している。さらに、キャリアセンターでは１年次から教職について相談できるような体制を作っている。

②　大学設置地の滋賀県並びに近隣府県・政令市（京都府、京都市、大阪府等）の教育委員会人事所管課から担当者を招聘し、求められる教員像、府県の教育の理念・目的をはじめ、リアルタイムの教員採用情報を学生が直接聞くことができる場を設けている。

③　「教職コアチーム」を編成したことにより、学生全体に教職に向かう真剣な姿勢が見られるようになった。令和 4（2022）年度、現役学生での教員採用試験の合格者が最多となった。

④　本学卒業の現職教員を招き、教育現場の実際を聞き、教育に携わる責任感や使命感を涵養している。

［取組み上の課題］

「必ず教員になる」という意識の高い学生には、教職へのキャリア支援の情報は有用であるが、「一応、念のため、ついでに教員免許状を取得しておくか」という学生は、情報を活用できなかったり、情報収集や進路相談の機会を逃しているのが現状である。

今後、教職に向けた意欲や適性の確認を適切に進める必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

・　資料２―２－１：教員採用試験受験者数、教員採用試験合学者数の年次推移、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2018 年～2022 年

年度		教採受験者	小学校			中学校			高等学校			特別支援			小計			幼稚園		
			受験	1次	最終	受験	1次	最終	受験	1次	最終	受験	1次	最終	受験	1次	最終	受験	1次	最終
2018	平成30年度	49	17	8	3	25	4	0	18	0	0	1	0	0	61	12	3	0	0	0
2019	令和元年度	54	20	9	4	38	7	0	10	3	0	3	2	2	71	21	6	1	1	1
2020	令和2年度	44	8	6	2	18	4	2	27	3	2	3	－	0	56	13	6	0	0	0
2021	令和3年度	38	7	5	4	21	3	0	19	1	0	1	1	1	48	9	5	0	0	0
2022	令和4年度	47	19	16	9	31	6	2	21	6	1	5	3	1	76	31	13	0	0	0

・　資料２―２－２：教育委員会説明会開催状況、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2021 年～2022 年

年度	日程	内容	対象
2021年度	４月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、大阪市、豊能地区)	１～４年次生
	11月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、大阪市、豊能地区)	１～３年次生
		講師登録説明会(滋賀県、京都府、高槻市)	４年次生
2022年度	４月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、豊能地区)	１～４年次生
	11月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、大阪市、豊能地区)	１～３年次生
		講師登録説明会(滋賀県、京都府、高槻市、本学)、教職面談	４年次生

・　資料２―２―３：教職コアチームの活動状況、参加者数、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2018 年～2022 年

教職関連講座等年度別　実施回数及び参加者　累計

年度	実施回数	参加差者数
2022年度	428	4012
2021年度	296	3661
2020年度	259	3165
2019年度	190	2665
2018年度	86	2487

・　資料２―２－４：卒業生によるキャリア講演会の開催状況、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2021 年～2022 年

年度	日程	内容	講師	対象	
2021年度	2021年12月16日（木） 5限	「先輩から学ぶ」 ～教員として勤務した感想、教採受験の経験から～	高等学校・小学校で勤務している卒業生各１名	３年次生	インターンシップ事後指導の一環 （キャリアセンター担当）
	2021年12月13日（月） 3・4限	教員のキャリア形成について	高等学校で勤務している卒業生1名	2年次生	授業の一環 （キャリア形成と仕事理解）
2022年度	2022年12月14日（水） 1・2限	教員のキャリア形成について	中学校で勤務している卒業生１名	2年次生	授業の一環 （キャリア形成と仕事理解）

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目３―１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

① 学部の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。（資料３―１―１）

② 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容の工夫を行っている。

③ 今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

④ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするように指導を行っている。（資料３―１－２）

⑤ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

⑥ スポーツ学研究科においては、中学校教諭専修免許状（保健体育科）及び高等学校教諭専修免許状（保健体育科）取得のための課程編成を行っている。ただし、専修免許状の授与資格を得ようとする場合は、当該免許状の一種免許状の取得もしくは資格を有しているという制限を設けている。

〔長所・特色〕

① 学部には教員養成を主な目的とした学校スポーツ教育コースが設置され、同コース専門科目と教職課程科目と連動し系統的なカリキュラムを同コース以外の教職希望学生にも提供している。

② 本学設置地の滋賀県並びに近隣府県(政令市)教育委員会の教員育成指標を参酌し、それぞれの地域の特性に基づく指導内容を盛り込んでいる。

③ 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）に該当する科目として、保健体育科（保健及び体育）の教育法、教材研究の科目を開講している。(資料３－１－３）

学生は、各科目の内容において、具体的な教材の活用を学習している。

（資料３―１－４）

④ 令和 2（2020）年度入学生及び令和 3 年（2021）年度入学生は、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）を学修する科目として、「教育方法論」を履修している。（資料３―１－５）

当該科目の内容において、ICT 活用の基本的考え方と実践について学修している。

（資料３－１―６）

⑤ 「履修カルテ」を、学生の学びの成長の度合いを自己検証できる重要なツールとして活用し、３年次での「教育実習指導」、４年次での「教職実践演習」の指導に、この蓄積を活かしている。

本学では、教職課程を希望する学生は、「カリキュラムマップ」を手掛かりに教職課程での学びを開始する。そして、現在の自分を客観的に評価し、振り返るための「履修カルテ」を含む『教職課程ポートフォリオ』を作成し、半期ごとに、履修状況、修得の有無、成績を確認し、「自己評価用ルーブリック」に基づいた自己評価を行い学修成果の可視化を図っている。

また、各授業の成果物を綴じ、随時見返すことにより教職課程での学びをより充実したものにしている。各期末には、「自分に関する記録」をまとめ、自らの学びを振り返り、次年度に達成したい目標を明確化するように指導している。この「自分に関する記録」は教職課程の教員が点検し、学生の現状を把握し、今後の指導に活かしている。

さらに、教職課程の最終段階として４年次後期に開設している「教職実践演習（中・高)」の初回時の授業において「教職課程ポートフォリオ」を活用し、これまでの教職課程で履修した教職に関する科目、教科に関する科目の「自己評価用ルーブリック」に基づく自己評価シートをもとに学びのシェアリング・討議などを通じて、情報を共有し、学生本の課題の明確化を図っている。(資料３―１－７）※基準項目２-１③再掲

また、学校インターンシップ、学校ボランティアなどの学びを活かし、将来学校現場に役立つ学びを身につけている。

〔取り組み上の課題〕

① 教職課程科目の指導を担当する教員に対し、現在、学校（教育委員会）が求めている教員像、今日的学校の課題について理解を深め、人間性豊かな教員養成を進める必要がある。

② 今日、学校の児童生徒にそれぞれ一台ずつのＩＣＴデバイスが配布され、遠隔授業が日常になった現状を考えると、教員を目指す学生には、さらなる機器の取扱いやソフトウエア運用の習熟と児童生徒との接し方の技量向上が必要である。

③ 教職をめざす学生は年次が進行するにつれて減少し、４年間で教育職員免許状を取得するものの、実際に教員採用試験を受ける学生は、教員免許状取得希望者の約５割～６割である。(2018 年度～2022 年度の人数で算出)

＜根拠となる資料・データ等＞

・　資料３－１－１：　びわこ成蹊スポーツ大学 2022 履修の手引き、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年、ｐ．47―49

・　資料３－１－２：「教職職員免許状取得について」、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年

2022年7月5日（火）5限　配付資料
2022年12月9日（金）5限　配付資料

教育職員免許状取得について（2022年度入学生対象）

1．取得可能免許

免許の種類（教科）	取得可能コース等
中学校教諭一種免許状（保健体育）	全てのコースにて取得可能 ※ただし、教育実習および介護等体験に参加するための条件あり
高等学校教諭一種免許状（保健体育）	

※ 本学では原則中学校・高等学校教諭一種免許状の両方を取得することとなっている。

2．教員免許状を取得するためには

次の条件が必要です。

（1）学士の学位を有すること（卒業に必要な単位を修得すること）

（2）教育職員免許法施行規則に対応する科目の単位を修得すること
　○教科及び教職に関する科目
　○教育職員免許法施行規則第 66 条の６に定める科目
　→2022 履修の手引き　Ｐ47～49（〔2020年度以降入学生〕（新法適用））

（3）中学校教諭一種免許状を取得する者は「介護等体験」を行うこと

3．教育実習について

（1）教育実習とは
教育実習は、教育職員免許法施行規則第４条および第５条に基づき、中学校・高等学校の教育現場において、大学で学んだ知識や実技を生かし、実際に指導することによって、教員としての資質や技能を養うことを目的としている。

※ 教育実習の受け入れは、将来教員になることを前提としている。従って「教員採用試験」を受けることが原則である。まだ、部活動やアルバイト、就職活動等を理由に教育実習を欠勤することはできない。

（2）実施時期
４年次生（在学４年目：休学期間除く）の前期（５月～７月）、又は後期（８月～１１月）
※但し、教育実習に行くための条件を満たした場合に限る。条件を満たさない場合はそれ以降となる。

（3）実習期間
３週間以上（受入校によっては４週間の場合もある）

（4）「教育実習」を履修するには
４年次（在学４年目：休学期間除く）で教育実習に行くためには、下記の条件を満たす必要がある。

条　件

① 卒業要件の「学部基礎科目」の必修科目を配当年次で修得すること。

１年次配当科目	成蹊スポーツ基礎演習	フレッシュマンキャンプ演習	スタディスキルⅠ	スタディスキルⅡ
	情報処理論	英語基礎	英語表現	自己理解とキャリアプランニ
２年次配当科目	キャリア形成と仕事理解			

② 教育実習履修要件科目≪ゲート科目≫を２年次終了（在学２年目：休学期間除く）までに修得すること。

１年次配当科目	教職入門	教育学概論	
２年次配当科目	教育心理学	保健体育科教育法Ⅰ（体育）	生徒・進路指導論
	教育課程論	道徳の指導法	

③履修規程第 22 条にもとづく「履修制限」の対象とならないこと。

④３年次終了（在学３年目：休学期間除く）までに下記の実技科目をすべて修得済みであること。
「器械運動」「陸上競技」「バスケットボール」「バレーボール」「水中運動法」「ソフトボール」「ダンス」「柔道」

⑤３年次（在学３年目：休学期間除く）で介護等体験を終えていること。

※入学後、びわこ成蹊スポーツ大学学則第 44 条第２項に該当する懲戒（退学・停学・訓告）を受けたときは、上記の条件を満たしていても教育実習に参加できない場合がある。

- 資料３―１―３：びわこ成蹊スポーツ大学 2022 履修の手引き、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年、ｐ．47
- 資料３―１―４：びわこ成蹊スポーツ大学 2022 シラバス、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年、ｐ．396―403
  https://biwako-seikei.jp/department/curriculum/pdf/syllabus_2022.pdf
- 資料３―１―５：びわこ成蹊スポーツ大学 2022 履修の手引、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年、ｐ．48
- 資料３―１―６：びわこ成蹊スポーツ大学 2022 シラバス、びわこ成蹊スポール大学教務課、2022 年、ｐ．427
  https://biwako-seikei.jp/department/curriculum/pdf/syllabus_2022.pdf

・ 資料３―１―７ :「教職課程ポートフォリオ」、「カリキュラムマップ」、「自己評価用ルーブリック」、「自分に関する記録」、びわこ成蹊スポーツ大学教職課程専門員会、2022 年

びわこ成蹊スポーツ大学　教職課程ポートフォリオ
２０２２年度入学生用

はじめに
Ⅰ　教職に関する基本的理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
１．教師（教育職員）の役割
２．教師の仕事
３．教員養成の仕組み
４．教員採用試験合格までの道のり

Ⅱ　本学における教員養成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
１．目標とする教師像
(1) 知徳体のバランスのとれた教養豊かな教員
(2) 教育者としての使命感や子どもに対する教育的愛情豊かな教員
(3) 子どもの成長・発達を保障する専門性豊かな教員
(4) 得意分野を持つ個性豊かな教員
２．本学における４年間の教職課程での学び
(1) 各学年における学び
(2) 履修上の留意点
３．本学で履修する教職科目群
４．教員としての力量形成のために
(1) インターンシップの活用
(2) ボランティア活動への積極的参加
(3) 教師塾等への参加

Ⅲ　学習の記録(履修カルテ) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
１．自己評価用ルーブリック
①履修の記録　（見本）
②教職課程ルーブリック
③教員免許取得単位チェック表

２．自分に関する記録
１年次・自分に関する記録　（見本）
２年次・自分に関する記録　（見本）
３年次・自分に関する記録　（見本）
４年次・自分に関する記録　（見本）

３．成果物を綴じる

Ⅳ　カリキュラムマップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２７

Ⅴ　教員免許状取得に関するスケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２９

Ⅵ　履修カルテに関するスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０

基準項目３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。（資料３―２―１）

② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

③ 本学教職課程専門委員会及びキャリアセンターと大学設置地の滋賀県並びに近隣府県（政令市）教育委員会等との連携協力体制の構築を図っている。

④ 本学教職課程専門員会及び教務課と教育実習協力校とが教育実習の充実のために連携を図っている。

⑤ スポーツ学研究科においては、中学校教諭専修免許状（保健体育科）及び高等学校教諭専修免許状（保健体育科）取得のための課程を編成している。（資料３―２―１）

〔長所・特色〕

① 大学設置地の滋賀県教育委員会から教職課程に関する授業（教育実習事後指導等）に委員会職員、教育機関管理職、学校管理職の派遣協力を受けている。（資料３―２―２）

② 本学はスポーツ学部であることから、中学校教諭１種、高等学校教諭１種保健体育科の教員免許状の取得が可能である。加えて連携する他大学の通信教育を通して幼稚園、小学校、特別支援学校教諭の免許状取得も可能としている。（資料３―２―３）

③ 介護等体験は、４年次生で控えている教育実習の前の３年次生で実施しており、本学設置地の滋賀県の公立支援学校、社会福祉機関・団体等へ赴き実習を行っている。（資料３―２―４）

なお、介護等体験については、令和２（2020）年度～令和４（2022）年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止から、文部科学省通知「令和２年度から令和４年度までの間に限り特例的に行う介護等体験代替措置等について」に基づき「在学する大学等において、令和４年度までに、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通知教育の科目に係る印刷教材の学修の成果を確認する措置を受けた者」により代替措置を講じた。

④ ボランティアは、スポーツ学部の特性上、学校や各種団体での体育・スポーツ活動の企画・運営、指導が多い。（資料３―２―５）

⑤ インターンシップは本学キャリアセンターが所掌しており、教職希望者には学校、教育機関・団体での実習を設定している。（資料３―２―６）

⑥ 介護等体験、インターンシップでは当該学生に報告書の提出を求め、報告書に基づき授業やゼミで振り返りの機会を設けている。

⑦ キャリアセンターからの招請で、滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会等の人事担当職員による教職に関する説明会を開催している。また、教員採用に関する情報についても随時提供していただく体制を整えている。（資料３―２―７）

⑧ 滋賀県並びに近隣府県（政令市）教育委員会が主催する「教師塾」、「教員養成講座」等に積極的に参加するように指導している。

⑨ 教育実習に際しては、約１年前の年度当初に実習協力校へ学生が直接赴き、教育実習受け入れの許可をいただくとともに、当該校の特色を学んでいる。また、実習の１ヶ月前までに担当する教科の単元やホームルームの状況などを聞き、実習の準備を入念に行っている。さらに、本学教員が実習中に実習校を訪問（近畿圏内に限る）し、実習校管理職・教職員に状況を伺い実習生に対し指導助言を行っている。

〔取り組み上の課題〕

① インターンシップでは派遣期間の設定が短く、受け入れ可能な学校、教育機関・団体が少ないのが現状である。

② 教育実習に際しては当該校の児童生徒の安心・安全を念頭に指導しているが、今日の情報化社会における児童生徒の個人情報保護の観点についてさらに徹底させる必要がある。

③ 教育実習協力校への本学教員の訪問について、現在近畿圏内に限られているが、学生出身地が拡大しつつある中、近畿圏外の必要な実習協力校への訪問について検討が必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞
・　資料３―２―１：教職課程履修科目一覧、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2022 年
＜2020・2021 年度入学生＞

免許法施行規則に規定する科目区分			最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目 授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
教科及び教科の指導に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技	中２８ 高２４	器械運動 陸上競技 バスケットボール バレーボール 水中運動法 サッカー ソフトボール ダンス 柔道	1 1 1 1 2 1 1 1	1	
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		スポーツ哲学概論 スポーツ心理学概論 スポーツマネジメント学概論 スポーツ社会学概論 運動学概論	2 2 2 2 2		運動学概論は、運動方法学も含む
		生理学（運動生理学を含む。）		スポーツ生理学概論	2		
		衛生学・公衆衛生学		衛生･公衆衛生学	2		
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		学校保健 救急処置法 健康教育・管理論	2 2 2		学校保健は小児保健、学校安全及び精神保健を含む
	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）			保健体育科教育法Ⅰ（体育） 保健体育科教育法Ⅱ（保健） 教材研究Ⅰ（体育） 教材研究Ⅱ（保健）	2 2 2 2		中１種免は必修

免許法施行規則に規定する科目区分		最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目 授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	１０	教育学概論	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（ﾁｰﾑ学校運営への対応を含む。）		教職入門	2		
			教師論		2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	2		
			生涯教育論		2	

	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（ｶﾘｷｭﾗﾑ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄを含む。）		教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中１０ 高　８	道徳の指導法	2		中１種免は必修
	総合的な学習の時間の指導法（中学校）		総合的な学習の時間の指導法	2		
	総合的な探求の時間の指導法（高校）					
	特別活動の指導法		特別活動論	2		
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用含む。）		教育方法論	2		
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論※	2		進路指導及びｷｬﾘｱ教育の理論及び方法を含む
	教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談基礎論	2		
			教育相談と学校カウンセリング		2	
	進路指導及びｷｬﾘｱ教育の理論及び方法					「生徒・進路指導論」に含む
教育実践に関する科目	教育実習	中５ 高３	教育実習指導	1		※実習期間３週間以上の場合履修 ※実習期間２週間の場合履修
			教育実習Ⅰ※		4	
			教育実習Ⅱ※		2	
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			備　考
		授業科目	単位数		
科目	単位数		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中　４ 高１２	道徳の指導法　※	２		※道徳の指導法は中１種では「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」となり「大学が独自に設定する科目」として適用できないので注意すること。
		オリンピック･パラリンピック教育		２	
		スポーツメンタルサポート論		２	
		福祉と介護		２	

※「大学が独自に設定する科目」の修得に必要な単位数（中；４・高；１２）は各科目（「教育実践に関する科目」は除く）の最低修得単位数を超えて修得した単位を充てることができる。

②教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	単位数		
科　　目	単位数		必修	選択	
日本国憲法	２	法と生活（日本国憲法を含む）	２		
体育	２	器械運動	１		
		陸上競技	１		
外国語コミュニケーション	２	英語表現	２		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目　又は　情報機器の操作	２	コンピューターリテラシーⅠ		２	１科目選択必修
		コンピューターリテラシーⅡ		２	

＜2022 年度入学生＞

免許法施行規則に規定する科目区分			最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目			備　考
				授　業　科　目	単位数 必修	単位数 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	体育実技	中２８ 高２４	器械運動	1	1	
				陸上競技	1		
				バスケットボール	1		
				バレーボール	1		
				水中運動法	2		
				サッカー			
				ソフトボール	1		
				ダンス	1		
				柔道	1		
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		スポーツ哲学概論	2		運動学概論は、運動方法学も含む
				スポーツ心理学概論	2		
				スポーツマネジメント学概論	2		
				スポーツ社会学概論	2		
				運動学概論	2		
		生理学（運動生理学を含む。）		スポーツ生理学概論	2		
		衛生学・公衆衛生学		衛生･公衆衛生学	2		
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		学校保健	2		学校保健は小児保健、学校安全及び精神保健を含む
				救急処置法	2		
				健康教育・管理論	2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）			保健体育科教育法Ⅰ（体育）	2		中１種免は必修
				保健体育科教育法Ⅱ（保健）	2		
				教材研究Ⅰ（体育）	2		
				教材研究Ⅱ（保健）	2		

免許法施行規則に規定する科目区分		最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目			備考
			授　業　科　目	単位数 必修	単位数 選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	１０	教育学概論	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(ﾁｰﾑ学校運営への対応を含む。)		教職入門	2		
			教師論		2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	2		
			生涯教育論		2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		

	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（ｶﾘｷｭﾗﾑ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄを含む。）		教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中１０ 高　８	道徳の指導法	2		中１種免は必修
	総合的な学習の時間の指導法（中学校）		総合的な学習の時間の指導法	2		
	総合的な探求の時間の指導法（高校）					
	特別活動の指導法		特別活動論	2		
	教育の方法及び技術		教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む。）	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論※	2		進路指導及びｷｬﾘｱ教育の理論及び方法を含む
	教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談基礎論	2		
			教育相談と学校カウンセリング		2	
	進路指導及びｷｬﾘｱ教育の理論及び方法					「生徒･進路指導論」に含む
教育実践に関する科目	教育実習	中５ 高３	教育実習指導	1		※実習期間３週間以上の場合履修 ※実習期間２週間の場合履修
			教育実習Ⅰ※		4	
			教育実習Ⅱ※		2	
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			備　考
		授業科目	単位数		
科目	単位数		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中　４ 高１２	道徳の指導法　※	２		※道徳の指導法は中１種では「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」となり「大学が独自に設定する科目」として適用できないので注意すること。
		オリンピック・パラリンピック教育		２	
		スポーツメンタルサポート論		２	
		福祉と介護		２	

※「大学が独自に設定する科目」の修得に必要な単位数（中；４・高；１２）は各科目（「教育実践に関する科目」は除く）の最低修得単位数を超えて修得した単位を充てることができる。

②教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目			備考
		授業科目	単位数		
科　　目	単位数		必修	選択	
日本国憲法	２	法と生活（日本国憲法を含む）	２		
体育	２	器械運動	１		
		陸上競技	１		
外国語コミュニケーション	２	英語表現	２		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目　又は　情報機器の操作	２	コンピューターリテラシーⅠ		２	１科目選択必修
		コンピューターリテラシーⅡ		２	

教員免許状取得に必要な科目（大学院）

種類	免許法施行規則に定める科目区分	左記に対応する開設授業科目			備　考
		授　業　科　目	単位数		
			必修	選択	
中専修 （保健体育） 高専修 （保健体育）	教科及び教科の指導法に関する科目	スポーツ文化論特論		2	選択科目から 24 単位以上を修得すること
		スポーツ文化論演習		2	
		発育発達特論		2	
		発育発達演習		2	
		地域スポーツ特論		2	
		地域スポーツ演習		2	
		野外スポーツ特論		2	
		野外スポーツ演習		2	
		学校スポーツ特論		2	
		学校スポーツ演習		2	
		健康教育特論		2	
		健康教育演習		2	
		臨床スポーツ医学特論		2	
		臨床スポーツ医学演習		2	
		スポーツマネジメント特論		2	
		スポーツマネジメント演習		2	
		トレーニング科学特論		2	
		トレーニング科学演習		2	
		コーチング特論		2	
		コーチング演習		2	
		スポーツ栄養特論		2	
		スポーツ栄養演習		2	
		スポーツ心理特論		2	
		スポーツ心理演習		2	
		スポーツバイオメカクニス特論		2	
		スポーツバイオメカクニス演習		2	

・　資料３―２―２：教育実習事後指導講義一覧、びわこ成蹊スポーツ大学教職課程専門委員会、2022 年

2022年度 教職実践演習･教育実習指導 日程及び担当者一覧表

			教職実践演習（4年次）	教室		教育実習事前指導（3年次）	教室
1	9月29日	木･5	オリエンテーション 教職ポートフォリオ回収	Z201･202			
2	10月6日	木･5	総合的な学習の時間に関して （滋賀県教育委員会 幼小中教育課 主査）	Z201･202			
3	10月13日	木･5	人権教育に関して （滋賀県教育委員会 人権教育課 指導主事）	Z201･202			
4	10月20日	木･5	生徒指導に関して （滋賀県教育委員会 幼小中教育課 指導主事）	Z201･202			
5	10月27日	木･5	特別活動に関して （滋賀県教育委員会 幼小中教育課 主査）	Z201･202	1	全体講義（オリエンテーション･実習の心構え）	大ホール
6	11月10日	木･5	自然体験学習に関して （葛川少年自然の家 所長）	Z201･202	2	全体講義（指導案の書き方、①保健･道徳）	大ホール
7	11月17日	木･5	授業演習のためのオリエンテーション	Z201･202	3	全体講義（指導案の書き方、②体育実技）	大ホール
8	11月24日	木･5	道徳の指導に関して （滋賀県教育委員会 幼小中教育課 指導主事）	Z201･202	4	全体講義（模擬授業の立案･教材･資料の準備）	大ホール
9	12月1日	木･5	授業演習	第2ホール マルチA	5	模擬授業	
10	12月8日	木･5			6	･保健･道徳	中講義室
11	12月15日	木･5			7	･バスケットボール	メインA
12	12月22日	木･5			8	･陸上競技	陸上F
13	1月12日	木･5			9		
14	1月19日	木･5			10		
	11月25日	金･5	教育実習事後指導 滋賀県立高等学校 校長	Z201･202			

・　資料３－２－３：年次別教員免許状校種別交付数、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2018 年～2021 年

免許状種別	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教員免許一括申請(中一種・保健体育)	90	88	85	70
教員免許一括申請(高一種・保健体育)	90	88	87	70
教員免許一括申請(小二種)	20	28	4	6
教員免許一括申請(幼二種)	0	0	0	1
教員免許一括申請(特支一種)	0	0	2	2
教員免許一括申請(中専修・保健体育)	2	1	3	0
教員免許一括申請(高専修・保健体育)	2	1	3	0

・　資料３―２－４：介護等体験実習先及び実習者数一覧（2019 年度）、びわこ成蹊スポーツ大学教務課、2019 年

2019年度　介護等体験　体験者数・体験先一覧

	体験者数	体験先	内訳	
特別支援学校	１０９名	滋賀県内の特別支援学校　４校	大津市	２０名
			高島市	8名
			草津市	７９名
			彦根市	2名
社会福祉施設	１０７名	滋賀県内の社会福祉施設　23施設	大津市	91名
			高島市	4名
			草津市	2名
			守山市	1名
			栗東市	1名
			甲賀市	1名
			愛荘町	2名
			近江八幡市	1名
			東近江市	2名
			彦根市	1名
			米原市	1名

※２名　社会福祉施設への体験前に教員免許状取得を辞退

・　資料３―２－５：教育ボランティア等派遣先一覧、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2022 年
・　資料３―２―６：インターンシップ（教育関係）派遣先一覧、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2022 年

教育ボランティア（スクールサポーター）及びインターンシップ

	滋賀県	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	石川県	静岡県	三重県	岡山県	福岡県	
小学校	6	1									7
中学校	12	9	5	1	1						28
小・中学校		1									1
高等学校	7	4	1	1	1	1	1	1	1	1	19
合計	25	15	6	2	2	1	1	1	1	1	**55**

・　資料３―２―７：各教育委員会教員採用説明会実施一覧、びわこ成蹊スポーツ大学キャリアセンター、2022 年

年度	日程	内容	対象
2021年度	４月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、大阪市、豊能地区)	１～４年次生
	11月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、大阪市、豊能地区)	１～３年次生
		講師登録説明会(滋賀県、京都府、高槻市)	４年次生
2022年度	４月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、豊能地区)	１～４年次生
	11月	府県別教員採用説明会(滋賀県、京都府、大阪市、豊能地区)	１～３年次生
		講師登録説明会(滋賀県、京都府、高槻市、本学)、教職面談	４年次生

Ⅲ　総合評価

本学はスポーツ学部及びスポーツ学研究科で構成され、基本的には中学校・高等学校保健体育科の教員免許状の取得が可能であり、加えて他大学通信教育との連携で幼稚園・小学校・特別支援学校の教員免許状取得も可能としている。

単一学部であるが故に、教職課程に関しては殆どの教員が関係しており、事務系においても教職課程専門委員会、キャリアセンターに専任職員を配置することにより「養成」、「採用」に関してきめ細かく教職希望学生に指導している。

その成果がこの数年で徐々に現れはじめ、令和５（2023）年度の教員採用において現役学生の合格者数が 10 名となった。本学の学生規模、教職希望者数、また各地の教員採用試験の倍率の高さから鑑みても特筆できると考えられる。

今後、本報告書に示した本学の取組を充実させ、さらに資質・能力の高い教員の養成を進めていく所存である。

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程認定を受けている本学が、その教育研究等の水準の向上や活性化に努めるとともに、社会的責任を果たしていくため、本学の理念・目的に照らして教育活動等の状況について次のプロセスに沿って自己点検し、現状を的確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点などを明らかにすることとした。

【第１プロセス：教職課程自己点検評価の実施決定・確認】

学長の意向を受け、教職課程専門委員会が学内（学部）の教職課程の自己点検評価を行うことが組織決定された。また、学校法人大阪成蹊学園とも十分な連携を図ることが確認された。

【第２プロセス：法令由来事項の点検と学部教職課程の各種データの取扱いの確認】

教務課において教職課程カリキュラムの編成や授業シラバスを含む教育活動について法令に反していないか点検するとともに、教職課程に関する各種データの収集・分析・集約の適切な取扱方法の確認を行った。

【第３プロセス：教職課程自己点検評価の実施体制】

教職課程専門委員会委員において点検評価事項を分担し、担当項目について情報収集・分析を行うとともに新たな課題について検討を進めることとした。

【第４プロセス：教職課程自己点検評価実施についての全学的公表】

教授会において教職課程自己点検評価の目的や基本方針等について周知を図り、その結果や成果を教職課程の改善・向上につなげる方策の在り方について協議した。

【第５プロセス：教職課程自己点検評価の実施】

教職課程専門委員会委員において先に決めた担当項目について、情報収集を行い、本学の教職課程の「個性や特色」、「直面している課題、新たに浮かび上がった課題」等をリフレクションした。

第１次集約　令和４（2022）年 ９月５日
第２次集約　令和４（2022）年 10 月４日
第３次集約　令和４（2022）年 12 月６日

【第６プロセス：集約した教職課程自己点検評価の学長・大学運営組織への具申】

【第７プロセス：学校法人大阪成蹊学園理事会への具申】

【第８プロセス：教職課程自己点検評価報告書完成】

【第９プロセス：学長・大学運営組織で承認、学内に公表】

【第 10 プロセス：大阪成蹊学園理事会で承認】

【第 11 プロセス：学外への公表】
　学外への公表は､教職課程の情報公表を義務化した教育職員免許法施行規則第 22 条の６の（６）「教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること」の趣旨に基づいて公表することとした。
【第 12 プロセス：「教職課程自己点検評価報告書」を基礎とした教職課程に関わる新たなアクション・プランの策定】

Ⅴ　現況基礎データ一覧　令和４年５月１日　現在

法人名	学校法人　大阪成蹊学園
大学・学部名	びわこ成蹊スポーツ大学　スポーツ学部
学科・コース名	スポーツ学科

1　卒業者数、教員免許取得者数、教員就職者数等	
①　昨年度卒業者数	366
②　①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	332
③　①のうち、教員免許状取得者数の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	70
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用者数）	34
④のうち、正規採用者数	5
④のうち、臨時的任用者数	29

2　教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（　　）
教員数	20	13	12	0	
相談員・支援員など専門職員数					